

九月二日

田中康夫長野県知事戦再当選。ここのとこころダムの勉強少ししたので状況はチョツとはわかるようになった。長野県民は冷静であつたと思う。冬季オリンピック後の長野の荒廃は誰もが知るところだが、官主導の超大型公共投資である「オリンピック」の後の有り様を知っている県民はダム問題というよりも公共投資主導型の政治に限界を見ていたのではないか。公共投資の方法も戦後日本はアメリカ型を学び選択した。TVA思想（テネシー川流域開発会社）はアメリカに大恐慌が起こった一九三〇年代のルーズベルト大統領のニューディール政策の中心であつた。それは巨大ダムを作れば雇用が発生し、人々が集まってきた、家が建ち、企業が誘致され、都市が生れる。ダムによって人々は幸せになつてゆくのだと言うものであつた。巨大ダム開発は核開発、宇宙開発と同じに、国家の威信をかけた大事業であつたのだ。今はそんな時代から七〇年経つた。核開発、宇宙開発が人類に何を持たせただのか、大きい疑問が我々の中に芽生え育っている時代だ。総じて国家主導の巨大開発は我々の日常生活の質とは無縁である事を、すでに我々は知ってしまった。今はもうそんな時代である。特に女性はその事を直観的に理解する能力を持っている。

長野県知事戦再田中勝利は大きな歴史の節目になるだろう。知事と県議会との対立などは小さな問題に過ぎない。田中康夫はその内に在る女性の感覚を持って歴史のターニングポイントを体で

感じていたのだ。田中は男性ではあるが、女性の感じ方を本来的に持つ男なんだろう。作家、芸術家の類は多かれ少なかれ皆その傾向がある。その女性的感性が政治という男世界の代表的舞台にまぎれ込み、決して引かなかつたところに今回のよじれ現象が発生した。長野県知事戦は男性原理と女性原理の衝突であつた。勿論歴史は女性原理に軍配を挙げざるを得なかつたのである。かくの如き事件はこれからも頻発するだろう。十一時名古屋浜島さん来室。東洋医院打合せ。十四時代官山ブランドシー野田さん訪問。中国の件打合せ。こんな時代に年々倍々で延びている会社らしく、若々しく活気に溢れていて、しかもチョツと怪しいところが魅力なんだろう。十五時半世田谷村に戻る。夕方までダム下調べ。夜に室内原稿上げなければならぬ。今回は我ながら前に書き始めようとしているが、何となくうまくいきそうにないぜこれは。変だなあ。次女友美帰国予定の今日になつても帰らず、大騒ぎ。何かの事件に巻き込まれたかと家中で心配する中、バンコクのパリンダの家とようやく連絡がとれて、友美は今パリンダとショツピングだとスパキットがのんびりと言つたらしい。要するに友美が帰国予定日を丸一日我々に間違えて伝えていたのだ。馬鹿娘があきれ返つてモノも言えネエ。こいつは本当に度々冷汗をかかされる。